既存老人介護施設のユニットケア改修、改築に関する研究

研究目的

既存老人介護施設は、平成 14 年度に示された国の方針により、小規模生活単位型（ユニットケア）、個室中心とするように求められていますが、多くの施設では未だ従来型のままの運営方式をとっています。老人介護施設は昭和 50 年代に整備されたところが多く、建物の改修、更新の時期が来ているため、改修を機にユニットケア型の施設への転換が必要となっています。

本研究では既存の老人介護施設について、ユニットケアへの転換をめざして、入居者の居住環境を確保し管理、運営のしやすい施設への改修、改築の計画手法を検討することを目的としています。

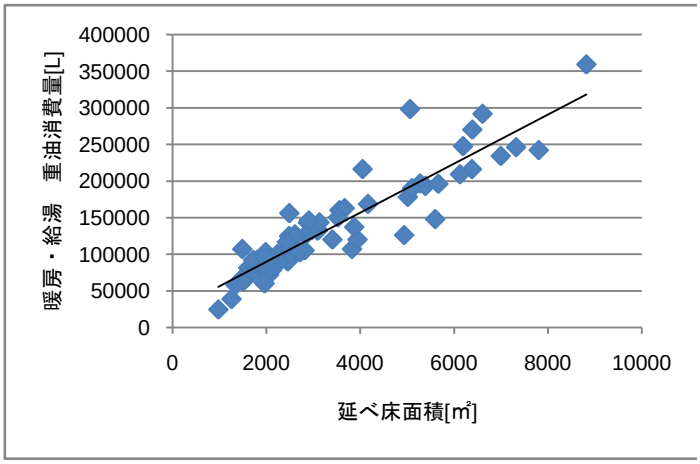

図１　暖房エネルギーと延べ床面積

研究概要

老人介護施設のユニットケア導入における課題を検討するため、個室や居室、入浴、管理等の諸空間構成と介護労力、管理労力の実態を調査し、分析を行います。また、個室、居室の空間構成と居住環境の実態を調査し、分析を行います。これらの調査・分析に基づき、具体の施設を念頭に老人介護施設の改修方法について検討します。

まず、既存ユニットケア施設の調査、道内老人介護施設のユニットケア化の課題把握、および老人福祉施設において介護者の介護行動の調査と施設内の環境調査などを実施しました。今年度はユニット型の老人保健施設を対象に行動調査および環境調査を行いました。

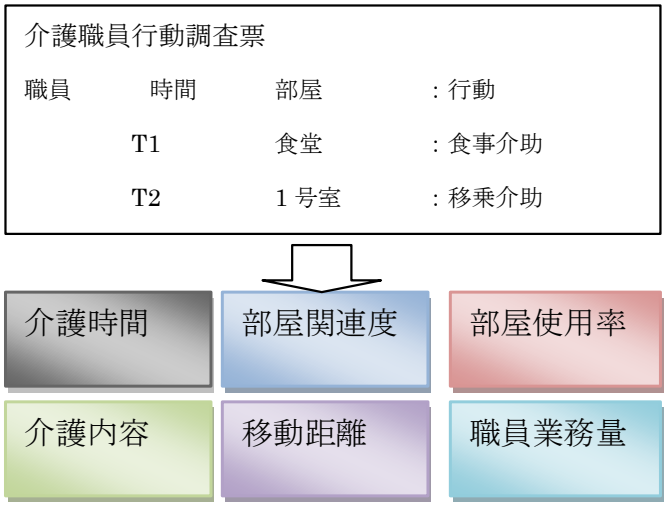

図２　介護行動調査方法

研究の成果

介護職員の介護行動調査を行い、介護に係る時間、部屋の関連度、移動距離などから空間構成の効率を分析する手法を開発しました。これにより職員の介護負担を評価し、施設のユニットケア化による改修の方向性を比較検討しました。

研究成果は、老人介護施設の改修を検討している設置者に対して、現状の平面計画の課題の把握と介護職員の勤務体制の検討に活用することができ、受託研究も展開しています。

北方建築総合研究所（担当グループ）
居住科学部居住科学グループ
環境科学部環境グループ

共同研究機関
（鹿追恵愛会）

copyright by Hokkaido Research Organization Northern Regional Building Research Institute